

勉学の旗

(高須中学校だより)



平成30年11月27日号 高須中学校長 山口和久

季節の変わり目に……

この前、文化総合発表会が終わったと思えば、あっという間に2学期期末考査が終わり、気がついてみればもうすぐ12月です。つい先日まで、暑くて半袖シャツだったのが、朝晩はめっきり寒くなり、そろそろ暖房が恋しくなります。八幡で幼い頃を過ごした私は、11月中旬にあった「起業祭」の時期に曇(みぞれ)が降ったりして、冬物の外套(がით)を出していたことを思い出します。その当時は、9月から10月にかけて「これぞ、秋！」という秋がゆっくりと過ぎていき、段々冬に近づいていきました。今は、感覚としては、夏が終わるとすぐに冬が来るという感覚です。中学校であれば、衣替えの移行期間をいつにして、防寒着の着用をいつからにするかなど、とても迷うところです。

話は変わりますが、文化総合発表会で幼少期の写真が必要になり、久々に実家に帰り、古いアルバムを引っ張り出しました。そこに写っていたのは、昭和40年代～50年代のものなのですが、本当に大昔という感じの写真でした。不思議なことに写真をみていると、その当時の自分の気持ちがなんとなくよみがえってきます。

私にとって見れば、中学時代は「近所の友達」から「気の合う友達」に変わる時期で、友達関係が不安定な時期でした。部活動をしていていた私は、その部や部の仲間たちの存在が濃すぎて、部を引退した後の空白感は並大抵のものではありませんでした。今考えれば、自分は人間関係を作るのがへたくそな中学生だったなあと思います。ただ、そんな私を救ってくれたのが、私が「一人であることがそんなに苦にならなかった」ということ【紅葉の中 勉強しながら登校する3年生】とです。



【紅葉の中 勉強しながら登校する3年生】
(手前は、いつも落ち葉を掃いてくれる先生)

人を本当に理解することも、自分を理解してもらうことも、難しいことです。人と考えが合わなくとも、たいがいのことは折り合いをつけて生活をしていくことができます。でも、気の合わない人と無理やり合わせてうわべだけの友達付き合いをするのが、私はとても苦手でした。

そんな中、時間はかかるけれど、互いを理解し、そのままの存在を受け入れられる人が必ずあらわれる、ということも大人になってからですが気づきました。それと同時に、自分だけを理解してもらおうというのはあまりにも都合のよい話で、人を理解しようとする努力をすることの大切さも知りました。

人間関係がうまく作れるにこしたことはありません。でもそれがうまく作れない時は多分誰にでもあります。自分の姿と重ねて、生徒の皆さんが様々なことに悩みながら成長している姿が目に見えます。

今日も授業を大切に

今月は、期末考査の3日間を除いて、生徒の下校が早くなる日が2日予定されています。1日は、11月14日のモデル授業参観・校内研修の時でした。この日は1年生一クラスだけ6時間目に授業を行い、その授業を全教員が参観するため他のクラスの生徒は下校させました。もう1日は、11月28日(水)の小中合同の研修会です。高須中・高須小・青葉小の3校で、年に1回どこかの学校で授業を行い、一緒に勉強をする会です。今回は、青葉小で授業が行われます。

この学校だよりでも数回書きましたが、今の子ども達に学校の授業で身につけさせなければならないとされる「力」は、様変わりしています。その「力」に対応するためのよりよい授業を、先生方も勉強しながら実践していきます。11月14日のモデル授業は、本校に月数回来てくださっている学力向上推進教員の森田先生(浅川中学校在籍)が、国語の授業を飛びこみでしてくださいました。とても勉強になる授業でした。

生徒の皆さんは、定期考査で良い点数を取ることも大切ですが、それは授業中の頑張りが基本とならなければならないことを肝に銘じてください。授業中は、「正解」を答えようとする事以上に、「意見・考え」を交換したり、書いたりすることを大切にしてください。また、今日授業で学んだことが、日常の生活の中にどうつながっているのか考えることもとても大切です。

すべての授業が、これから後の生徒の皆さんの生きていく基盤になることを期待しています。